

キャリア形成支援セミナー

1. 司会のことば

高山 清茂*

急激な少子高齢化が進む時代状況の中、本セミナーにおいては臨床検査技師の資格をお持ちの先生方が、どのような経過を経て現在のお仕事に就かれたかについてお話をいただきました。臨床検査技師を目指している学生さんの将来進むべき道へのヒントを得られるように、そして、そのためのモチベーションを高めていただいて、今後の進路に対して大いに参考にさせていただくことを目的としました。

最初の講演者は芦屋病院臨床検査科技師長をされている上田一仁先生でした。上田先生は、大阪府立公衆衛生専門学校を卒業され、病院検査部でのお仕事に就かれている中で博士号を取得されました。病院で患者さんと接していくこと、他の専門職種の方々と積極的な交流を深めていくことで、臨床検査技師への要望を的確に把握しつつ自己研鑽を行って、これからの医療を引っ張っていける「思考」を持った人材に育てていくことを要望されました。

2番目の講演者は、シスメックス株式会社の商品開発部にて仕事をされている岡智子先生でした。開発チーム内においてたった一人の臨床検査技師として、また、女性として子供さんを育てつつ歩んで来られた体験を語られました。学生時代は専門知識以外の様々な分野の知識を吸収して基礎体力をつける必要があること、病院実習やインターンシップに積極的に参加して、社会人としての心構えを準備する必要性をお話されました。

3番目の講演者は、武田薬品工業株式会社において医薬品開発に携わっている香川朋也先生でした。香川先生は「くすり」を開発していくプロセスを詳細に説明して下さいました。「くすり」としてこの世の中に出てくる確率が大変に低く、化合物の創製から臨床の現場に提供するまでの確率が0.01%に満たないとのことですが、能動的・積極的に仕事に取り組んでいる様子を、そして、臨床検査学を専門とするエキスパートが、医薬品の創出に貢献できる可能性について話して下さいました。

4番目の講演者は山口大学大学院医学系研究科・生体情報検査学において教授の野島順三先生でした。大阪医療技術学園臨床検査科を卒業され、病院での臨床検査技師として仕事に就かれ、以後努力を積み重ねられて博士の学位を取得され、現在は新鋭の大学教授として活躍している様子を生き生きと話して下さいました。治療以外の業務を分担できる医師に最も近い医療職として、今後の医療の要としての臨床検査技師の存在意義を主張されました。

4名の講演者に共通していたことがあったように思いました。第一に、皆さんが求めていって優れた指導者に恵まれたこと。第二に、求めていって環境に恵まれたこと、そして、より良き環境にしていかれたことでした。学生さん達にとって、これからの進路のことを考える上で有意義なセミナーだったと思いました。

*群馬大学大学院保健学研究科 takayama@gunma-u.ac.jp